

■ 新日本婦人の会流山支部が炊き出しボランティア募集に手をあげる

●27日昼食、夕食、30日昼食まで決定。引き続き、輪番で実施できるようご協力ください

老人福祉センターに移動した避難所で炊き出しボランティアの態勢づくりがすすんでいます。26日の昼食は東葛病院健康友の会がカレーを提供しました。

「もう一食を」との党対策本部の呼びかけで、新婦人流山支部が27日(日)の昼・夕食に名乗りをあげてくれました。昼食は、東部地域の2つの班が、夕食は北部地域の2つの班が担当します。緊急の3役会議で30日の昼食もやることになりました。

当面の炊き出しの予定

27日(日)	昼:新婦人	夜:新婦人
28日(月)	昼:未定	夜:日赤
29日(火)	昼:未定	夜:日赤
30日(水)	昼:新婦人	夜:日赤
31日(木)	昼:未定	夜:日赤

昨日の連絡先電話番号は間違です、訂正します。

当面、090-8086-3281(いぬい)まで連絡ください。

●被災者の受け入れ、自治体によって大きな違いが…埼玉県、三郷市と千葉県、流山市

テレビで埼玉アリーナの避難所が度々報道されていますが、千葉県には大規模な避難所は設置されていません。千葉の取り組みの弱さを感じます。

市町村段階でも同様の傾向があるようです。市議団の調査では、お隣の三郷市は福島県広野町との災害相互協定により、震災直後にバス7台を派遣して被災者250人を運び、瑞沼市民センター(廃校になった学校)を避難所として受け入れています。協定にもとづ

き製パン会社からパンを支給、JAがお米を差し入れるなど官民の態勢がある程度整っています。いわきナンバーや相馬ナンバーの車も来ていて、広野町だけでなく受け入れている様子です。

「市職員が8人ぐらいで避難所を運営している。三郷市に震災対策で電話すると『対策本部です』と返ってくるが、流山市は『生活安全課です』。この違いはなんだろう」と病院関係者が語っています。

■ 地震発生から2週間、避難所暮らしがいつまで続くのか、手持金も少なくなっていて不安です

「家も仕事もあり元気な人たち」…流山市は避難所の人たちをこう見ているようです。この間、避難所の被災者への支援を行って来るなかで、これとまったく違う実態が見えてきました。Aさん一家は、南相馬には200㎡の家があります。夫婦で働いてローンを返済し、家族5人で普通に暮らしてきました。しかし、今は、放射能汚染でいつ帰れるかわかりません。仕事もなくなりました。手持ち金も残り少なくなりました。生活保護を申請しましたが、千葉県は避難所の人は保

護が受けられないと通達を出しています。しかも、流山市は避難住宅を提供しようとしていません。仮設住宅などに移れば生活保護の対象になるのです。市議団は、改善を強く求めています

もうすぐ新学期、子どもたちの学校はどうなるの…

避難所には、小学校、中学校に入学する子どもも含め、子どもたちが数多くいます。当然問題になるのは、子どもの学校や遊び。26日には、東葛看護学校の学生たちが子どもの遊び相手になりました。江戸川台児童館も遊びにおいでとっています。お母さんの心配は、勉強が遅れること。対策本部では、東葛教職員組合と連絡を取り、学習支援を検討してもらっています。

新学期が近づいていますが、制服も教科書もあります。教育を受ける権利をどう保障していくのか、今、迫られています。

●震災にかかわる行政の窓口は

流山市東日本大震災相談センター

7158-1111 市役所

●救援活動やお困り事など何でもお寄せください

日本共産党流山市震災対策本部

いぬい紳一郎事務所 7157-6140

小田桐たかし事務所 7154-8253

徳増きよ子事務所 7144-1753

植田和子事務所 7154-0288

救援活動の情報をお寄せ下さい (FAX7157-6140)

市議団のHPもご覧ください <http://www.geocities.jp/kfbkd645/>